



## 「大正大学」発！地域活性&伝統野菜復活計画

### ～『育てる・食べる』を通して生まれる多様なコミュニティ～

大正大学（学長：高橋秀裕、所在地：東京都豊島区）の社会・地域貢献に関する科目「サービ斯拉ーニングⅡ-D」においてキャンパスでの農業活動が進行中。学生と教職員が、学内の屋上や建物裏などのデッドスペースを利用した「キャンパス農園」（担当教員：古田尚也教授）で巣鴨にゆかりのある野菜を『育て、食べる』ことを通して大正大学のエリアキャンパスである巣鴨の地域コミュニティを育むことを目指した活動を実践しています。

「キャンパス農園」では、本校の連携自治体（95自治体）より提供を受けた種苗の他、滝野川に本社のある（株）日本農林社様からご提供いただいた江戸野菜（※）等の特徴ある40種類以上の野菜や果樹を栽培しています。巣鴨の地は、明治時代に旧中山道を巣鴨から北上した所から滝野川三軒家（現：北区滝野川六丁目）の間が「種屋街道」と呼ばれるほどの種苗販売街だった歴史から、滝野川牛蒡など多くの伝統野菜の品種がありました。本活動には、こうした巣鴨の地域の歴史を現代に甦らせる狙いもあります。

エリアキャンパスにおいて大学が地域を巻き込んだ伝統野菜の復活と、日常生活の中で自然と会話が生まれる場の提供により、「『育てる・食べる』通じて地域コミュニティを育てる」ことを目的として活動を進めています。なお、「キャンパス農園」で育てた野菜やその加工品は、本学南門広場で随時頒布を行なっています。

（※）江戸野菜（江戸東京野菜）…江戸時代から主に現在の東京23区やその周辺で伝統的に生産されていた野菜です。



現在、九条ネギの試験頒布の実施中（南門広場）



7号館3Fテラスの畑にて作業する様子

#### 【背景】

大正大学教職員が、2016年より巣鴨キャンパス内のデッドスペースを利用し、豊島区を拠点として農作物の栽培を行い、都市型グリーンインフラのあり方を考え、実践する「としまグリーンインフラ研究会」を設立・活動してきました。本取り組みは、「トヨタ自動車環境活動助成プログラム」より活動支援を受け、2020年度から「すがもプロジェクト」（※）と連携し、授業「サービ斯拉ーニングⅡ-D」へ発展しました。

（※）すがもプロジェクト…巣鴨一帯をキャンパス（エリアキャンパス）として捉え、エリアキャンパス内を活性化するための様々な施策を学生・教職員が実施



学内のデッドスペースを利用するため土壌ではなく土嚢や波板等を使って畑を作成する工夫



現在、次回の試験頒布に向け、スナップエンドウ栽培中



コロナ禍により遠隔栽培として水耕栽培を導入

### ◆大正大学

大正大学は、設立四宗派の天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗および時宗が協働して運営する大学です。その協働の精神を支えているのが、大正 15 年（1926）の創立時に本学が掲げた、「智慧と慈悲の実践」という建学の理念です。建学の理念のもとに〈慈悲・自灯明・中道・共生〉という仏教精神に根ざした教育ビジョン「4 つの人となる」を掲げて教育研究の活動を展開しています。また、令和 2 年度文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に本学の推進する「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」が採択されました。公式 HP：<https://www.tais.ac.jp/>

## 令和2年度 文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」採択校

「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」 大正大学

### ■取材に関するお問い合わせ

大正大学 総合政策・広報課 志村

電話：03-5394-3025（直通）FAX：03-5394-3068 /E-mail：kouhou@mail.tais.ac.jp